



TITLE:

熱河雜觀(其の三)

AUTHOR(S):

上治, 寅次郎

CITATION:

上治, 寅次郎. 熱河雜觀(其の三). 地球 1933, 20(5): 362-369

ISSUE DATE:

1933-11-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/184221>

RIGHT:

熱河雜觀

(其の三)

上 治 寅 次 郎

一四、札薩克

蒙古人の部落では「旗」と稱する區劃を以て其の自治の基礎とする。一旗の長として、其の領内の人民を統治する王公の職を札薩克と呼ぶ。多くは世襲である。筆者が本年五月二日翁牛特王府を訪れたとき、翁牛特旗の旗長、即ち札薩克から懇懃に迎へられ、「昭烏達盟翁牛特右翼札薩克親王旗翼長楊修純」と、長々と記した名刺を渡された。肩書の意味は蒙古の政治組織を知らぬときは、一寸分り兼ねる。

熱河省は所謂内蒙古の一部であつて、盟と呼ぶ區劃が二つある。卓索圖盟・昭烏達盟即ち是である。其の下に旗があり、數旗の集りを部といふこともある。卓索圖盟には五旗（喀喇沁右翼、

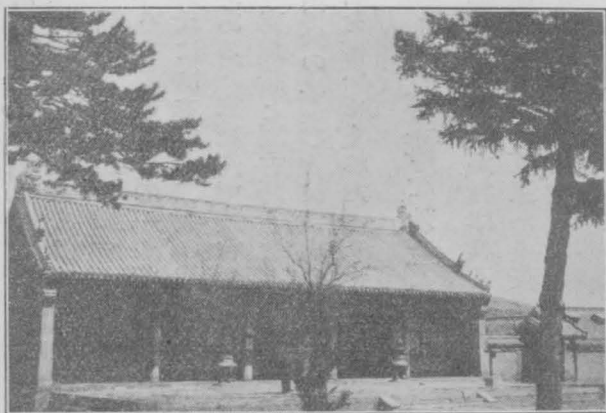
同左翼、同中、土默特右翼、同左翼）昭烏達盟には十一旗（敖漢、奈曼、喀爾喀左翼、札魯特右翼、同左翼、阿爾科爾沁、翁牛特右翼、同左翼、巴林右翼、同左翼、克什克騰）がある。盟は有事の際に利害を同じくする旗の聯合に基因するらしく、有力なる旗長（札薩克）は盟長をも兼ねた時代もあるが、今は盟は只名のみ残るに過ぎぬ。親王は清朝時代に蒙古人懷柔のために賜はれる特爵である。

この蒙古の旗行政は前清雍正の頃から布かれたる縣行政と、漢族が増加し、蒙古族は外蒙に去るもの多くなつたことなどのために殆ど昔の殘骸を止める程度となつて居る。

一五、翁牛特王府

第十一圖

翁牛特王府廳房（正殿）



荒涼たる山間に、榆の老木の茂れる庭園を以て圍繞され、珍しくも瓦葺の宏莊なる多くの建築物があつて、流石に蒙古王の重味を窺はせるものは王府である（第一一圖）。警備の騎兵一箇

第十二圖

翁牛特右翼旗長札薩克親王と一行

（前より第二列、向つて右）



中隊と共に隊伍を整へて王府に入れば、札薩克楊氏は一族と共に門前に出迎へてくれた。それは豫想に反して優しい人であつた（第一二圖）。執事から色々の話を聞く。例へば支那政府から土地の開放を要求されて、止むなく開放すれば牧畜地域は數年にして農業地と化する。その

地租は王府の土地局に納入する約束であるにも拘はらず、約束を履行するものは少數であるといふ始末で財政上の壓迫を感じることが尠くないといふやうなこともその一つである。

札薩克楊氏には本年十二歳の鮑靖遠といふ可憐な子供がある。家庭内で蒙古教育と漢學教育とを受け、支那語と蒙古語とを多少知つて居た（第十二圖中央の子供）。父楊氏の名刺の裏に蒙古文字で名を書いてくれたのも愛嬌であつた。

一六、可憐なる羊の群

熱河の粗放なる農業が行はれるに至つて、開墾が進むに至つたが、天恵ある農業地でない外に種々の事情があつて、農民は相當に疲弊して居る。それにも増して可憐なるは羊の群である。第十三圖の様な滑らかな曲線を見せたる山野に暖い春の日を浴びて、群る羊の群はミレーの繪に見る如く平和の表徴の筈である。しかるに彼等の得んとする牧草は容易に得られない。食

物を探して山野を跋涉する彼等は不知の間に數里を歩み、遂に空腹を癒すに足るだけの餌食を得ず、家路に急がんとするときは既に日は西山に没して居る。かゝる日を、今日も明日もと、反復する中に飢と疲勞によつて、遂に斃れるものは其の數多しと聞いた。

更に、近來流行し始めるに至れる胎羊皮クイーンズを得んとする風習のために多數の妊羊が屠られ行きつゝあることは、可憐の極である。胎羊皮とは自然分娩を待たずして、分娩期日約一ヶ月前に母羊を屠り、胎兒の皮を剥ぎたるものをいふ、一行中の滿鐵技師高松三守氏の調査によれば、胎兒の皮は分娩による仔羊皮とは全く異り、短毛密生し、光澤と模様とに富み手觸り恰もビロードの如くであるといふ。虚榮の満足に忙はしい歐米婦人の外套用に輸出するのだと聞く。従つて仔羊皮に四倍乃至七倍の價格を以て賣買せらる。仔羊皮は一枚一元（圓）内外である。

胎羊皮取引は民國十五年より始つたもので、

第十三圖
羊の放牧（赤峰近郊）



赤峰に集まる妊羊年々五千に達すといふ。これ等は陰曆十一月頃屠らるゝものである。この結果は羊の蕃殖を減じ近來赤峰市場の羊皮の總數の減少を招來するに至り、赤峰の羊皮取引をし

て不振の一大原因をなすに至つて居るといふ。動物愛護の點から見ると、畜産資源開發の點から見るも胎羊皮の取引は止めたいものである。

一七、畜産の赤峰

烏丹城・凌源及び赤峰は熱河著名の畜産市場である。ことに赤峰は天津・營口・奉天の大市場と直接取引をなすを以て熱河第一位にある。畜産中で羊皮は駝背によつて天津へ向け、河頭驛に出し、牛・馬皮及羊皮は駄子によつて錦州へ出し、營口・奉天方面へ向けらる。

羊毛は春毛は陰曆五月、秋毛は九月、獸皮中馬皮は十一月より十二月、牛皮は三月四月、毛皮類中緬羊皮・山羊皮は十月乃至十二月、狐十月より十二月、生畜は七八月頃取引されるものである。

赤峰に於て大同元年取引されたる毛皮及皮類總額は六十六萬二千四百圓（各商店に就き高松技師調）であつて、全盛期民國十三年の二百萬圓（中羊

及羊毛百八十萬圓)に比して三分の二に減少す。生畜は羊一萬五百頭、猪二千頭、牛二千頭、馬五百頭、騾六百頭、驢七百頭であつて、近來通遼に鐵道開通と共に烏丹城より直に通遼に向ふに至れることも赤峰市場の衰ふる一因となつた。

赤峰の畜産集散は近來稍不振を見るに至れりと雖も、蒙古貿易市場としては滿洲國第一位にあつて、その市場に上る範圍は烏珠穆沁・札魯特・阿爾科爾沁・林東・林西・經棚・巴林・烏丹城等其の區域廣汎である。これ等の地方より集散する方法は現在林西・經棚等に根據を有する出發子(蒙古行隊商)により、又は赤峰毛皮店の奥地派遣員によりて赤峰に集まり、天津・營口・奉天方面に搬出されるものである。

一八、馱子と掌包兒

馱子とは交通運輸に従事する騾・驢・駱駝等の群をいひ、赤峰より朝陽錦州方面に至るものは

多く騾・驢が用ひられ、天津北平方面へは駱駝が用ひられる。一組七八十頭より百四五十頭の驢又は騾が通常二百五十斤乃至三百斤位宛の積荷をして、一ヶ月二回往復をなすのである(第

第十四圖

馱子 運ぶ 炭 石

(驢、赤峰附近)



十四圖)。

この駄子を指揮する頭目を「掌包兒^{ジヤンポル}」といつて現在七人あるといふ。朝は遅く出て、晩は早く宿舎に着き、運賃の幾割かはねて、呑氣な悪く言へばズボラな生活をして居る。これが熱河唯一の運輸機關であるとは物足らない。

一九、縦列運輸

熱河討伐が始まつて最も困難を感じたる一つは道路に車馬を容易に通じ得るものなく、兵站輸送の敏活を缺くことであつた。軍部では今回の討伐に於ける試みとして大縦列運送と呼んで荷馬車一萬臺(奉天より六千臺、遼陽及び新京より四千臺)を熱河に入れ、之を朝陽より赤峰までと、朝陽より承德までとに配置して、毎朝荷物を満載して朝五時半發、八里乃至十二里を行程として大縦列をつくつて運送することゝなつた。馬車一臺に馬夫一人、馬二頭乃至四頭、荷物七十貫位積載。一日馬車一臺の馬夫賃馬糧六圓。

一縦列には百臺乃至百三十臺位の荷馬車を以て、これが一列に并び、行進する様子は熱河始まつて以來の偉觀であつたといふ。この偉大な行列に向つて襲撃して食料等を奪はむとする匪賊があるために常に警備の爲め縦列監視の兵が同行するのである。吾々も旅行中この荷馬車の荷物の間に乗せて貰つたことが多かつた。恰度鼠のやうに荷物と共に運ばれるのである。

二〇、熱河の鐵道

本年初め事變發生以前に於ては熱河省内の鐵道は纔に錦州—北票間^{ペイピョウ}百二十料の奉山線北票支線の一部約四十料あるのみであつた。駄子の交通運輸、これは熱河開發のために第一に考慮を要する問題である。勿論、大縦列運輸の如き費用の莫大なものは永續すべくもない。

滿洲國では豫算六千萬圓を以て鐵道敷設を計畫し、之を滿鐵に請負はしめた。滿鐵は錦州に鐵道建設事務局を設け萬般の計畫を進め、四月

には沿線の飛行測量を終了し、三百名の工夫を
使役して敷設を急いで居る。

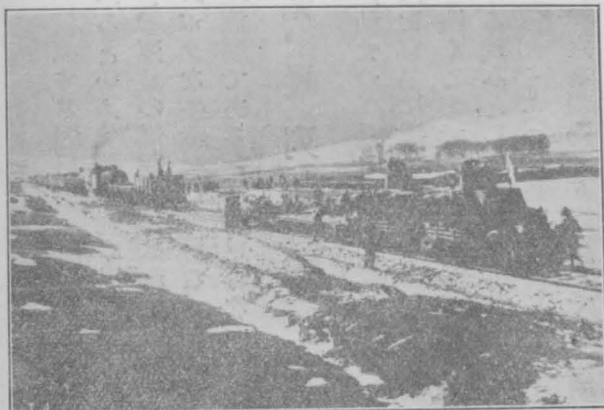
北票支線の扣北營子驛コバイインズから朝陽に至る間は本年六月開通を見た筈であり（第十五圖）、朝陽

より大凌河を遡つて太平房・葉柏壽を経て凌源に至る約百六十軒は本年中に開通の筈である。
凌源より平泉を経て六溝に至り南方を迂廻して承德に向ふ約百八十軒は昭和九年中に完成の豫

第十五圖

工事中の熱河の鐵道

（北票—朝陽間 昭和八年三月）



第十六圖

赤峰行旅客機

（錦州北大營飛行場にて）



定、葉柏壽から老哈川^{ハルハ}の谷を北土じ、黒水を經て赤峰に向ふ百六十軒は昭和十年には完成の見込みである。線路は全部四呎八吋の廣軌、枕木は吉林産、軌條は八幡製鐵所製である。

熱河事變の御蔭で熱河にも飛行運輸が行はれる様になつて、王道文化の恩澤が奥地にまで及ぶに至つたことは慶賀に堪へぬ。本年五月頃には錦州・朝陽・赤峰間、錦州・朝陽・凌源・承德間を隔日に一往復して居た。陸路一週間を要する錦州—赤峰間を一時間半で飛ぶ。吾々資源調査班一行も錦州—赤峰間を飛行機で運搬された。第十六圖は錦州北大營飛行場を出發、赤峰に向

はむとするとき旅順大學小倉教授（錦西一帶の資源調査班長）の厚意により撮影されたものである。筆者の命ぜられたる鑛産資源調査はこれから始まるのである。（完）

熱河省各地の宣傳文

滿洲國民安居樂業

熱河全省光被王道

熱河人民の滿洲國

熱民要一致擁護滿洲國

熱河平而滿洲平 滿洲平而東亞平

熱省此後得到仁政的恩惠

熱河省裡不許有匪黨

努力建設新熱河

日本入寇爲援助非侵略

不分種族之畛域

打成五族有一族

生意恰如春前草

綿繡山河富貴春

○文檢地理科豫備試驗問題

昭和八年十月施行

一、左の各事項につき例を十箇處本邦に採りて其の特質を比較論述せよ

イ、トロイデ (Tholoides) ロ、三角洲 (Delta)

二、世界における主要なる可航運河の政治經濟地理的意義を説述せよ

三、濠洲西南部地方の地誌を述べよ

四、我が國における棉花貿易につきて述べよ

イ、海克線

ロ、アフリカの陸商路

ハ、ボリビヤと太平洋との連絡交通關係

右 四時間